

第4章 温暖化防止対策

4.1 取組方針

市の事務事業に伴う温室効果ガス削減は、次の考えのもと、取り組んでいきます。

(1) まず減らす。

市の事務事業を通じて、温室効果ガス及び環境負荷を減らすために、過剰に使用していたエネルギーや資源の消費を抑制し、廃棄物の排出を削減します。

(2) 効率的に利用する。

市民等のみなさんのご理解・ご協力をいただきながら、行政サービスの質を損なうことなく、快適で効率的な職場環境を確保し、エネルギーや資源の効率的な利用を図ります。

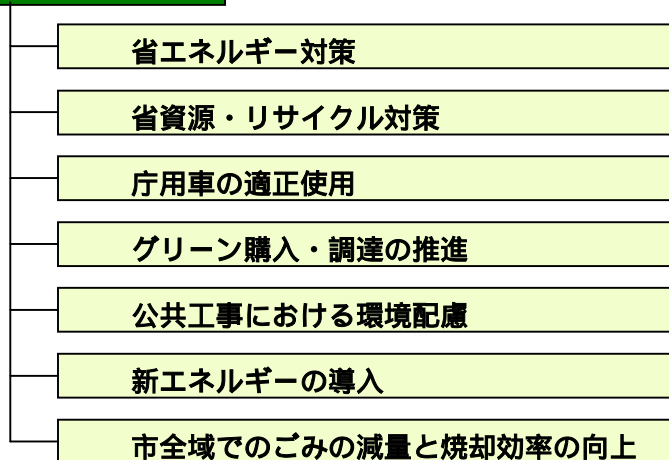
(3) 環境に投資する。

中長期的な視点で、費用対効果を踏まえ、省エネルギー型、低炭素型の施設・設備を導入します。

4.2 温暖化防止対策の体系

市では、次のような体系のもとに温暖化防止対策に取り組めます。

温暖化防止対策



和光市©

4.3 取組事項の検討及び推進

各課所等においては、エコオフィス推進委員会を中心に「取組項目選択の指針」に基づき、本章に示す具体的取組を積極的に推進します。

また、職員一人ひとりが新たな発想をもって、温室効果ガス排出量の削減に取り組めます。

取組項目選択の指針

できるところから

無理せず、できる取組からはじめます！

どうせやるなら一石二鳥

温暖化防止以外にも効果が得られる取組を選択します！

行政サービスの質を保つ

行政サービスの低下を避け、実現可能な範囲で選択します！

市民や事業者の模範たれ

市民や事業者の方々の模範になるような取組を選択します！

経営的視点を常に持つ

コスト意識を持って取組を選択します！

4.4 具体的取組

和光市では、これまでの計画においても具体的な取組事項を定めて温暖化防止対策に取り組んでまいりましたが、今回の計画では、達成状況を定めることにより現状をわかりやすくしています。今後は、未達成の項目について優先的に取り組めます。

取組事項の見方

達成状況		
	未達成	まだまだ努力が足りません。
	推進	今後も取組に努めます。
	継続	習慣化しています。






省エネルギー対策

(1) 現状と課題






これまでも市の事務事業に伴う温室効果ガス削減のために、各課所等において、エコオフィス推進委員会を中心に省エネルギー対策に取り組んできましたが、これからは、各課所等の最も効率的な実践方法を共有するなど、より効果的な取組を目指します。

(2) 取組事項



まず減らす

1	屋内照明及び屋外照明は、可能な限り、使用時間短縮・間引き消灯・未使用時の消灯を徹底します。	
2	冷暖房の使用期間や時間の短縮に努めます。 中間期は自然換気に努めます。	
3	OA機器を使わないときは節電モードに切り替えます。 (長時間使用しない場合は電源を切ります。)	
4	ノー残業デー(水曜日)を徹底します。	
5	荷物の搬入搬出などやむを得ない場合を除き、エレベーターを利用せず階段を利用します。	

効率的に利用する、環境に投資する

1	冷暖房の温度を適切に調整します。(冷房 28 / 暖房 19)	
2	建物の断熱性の向上(外気の流入遮断、反射ガラスの採用等を図る)やブラインドの有効活用・窓や出入口のこまめな開け閉めなどにより、冷暖房の効率的な利用を図ります。	
3	エネルギー利用の合理化に努めます(中央監視の強化、デマンド監視の徹底等)。	
4	ボイラー等の適正運転の管理、燃焼効率の向上を図ります。	
5	省エネ型の自動販売機の設置を要請します。	

環境に投資する

1	照明等は、高効率型の照明器具や自動制御装置を導入します。	
2	窓ガラスに、日照調整フィルムを設置します。	

(3) コメント

例えば、冷暖房の温度を1℃調整することにより、施設全体に対して約2%の電力使用量削減の効果がります。省エネルギー対策への取組については、各職場においてエコオフィス推進委員が中心となり、窓や出入口のこまめな開け閉めなどの改善運動を行い、他の課所等との情報の共有に努めます。

省資源・リサイクル対策






(1) 現状と課題

ごみ全体の量は減ってきていますが、ごみの処理には、ごみ1トン当たり約4万円の経費が必要で、最終処分地も他市町村に依存しています。環境問題、省資源、経費削減の面からも、ごみにしない、ごみを出さないといった意識改革を推進します。





市の事業による二酸化炭素の排出は、ごみの焼却による割合が最も高く、温暖化防止の面でも、ごみの削減への取組を推進します。





(2) 取組事項

まず減らす

1	水使用量の抑制に努めます(トイレ用水の水圧調整、洗面所での弁調整、庁用車の洗浄方法の改善等)。	
2	できる限りごみを出さないで、ごみを減らします。	
3	会議での資料を減らすなど、紙類の使用量を抑制します。	
4	ビン・缶・ペットボトル・プラスチックのリサイクルを徹底します。	
5	紙ゴミのリサイクルを徹底します。	

効率的に利用する、環境に投資する

1	市主催イベント等でごみの持ち帰りを呼びかけます。	
2	裏紙を有効利用します。	
3	市発行物に再生紙マークを表示します。	
4	備品類、機器類の修繕、長期使用及び再利用を行います。	

5	物品の共有化による効率的利用や詰替え製品の利用による長期使用に努めます。	
6	市主催イベント等での使い捨て容器の使用を控えます（エコカップの利用等）。	
7	生ゴミのリサイクルを行います。	
8	水利用の合理化に努めます。 （節水コマや擬音装置の設置、中水利用等）	

コメント

市民まつり等の市主催のイベントにおいてエコカップを使用するなど、市全体として積極的にエコ活動を推進しています。




庁用車の適正使用

（１）現状と課題





走行距離や燃費を把握して、二酸化炭素排出量の削減に努めています。全職員の意識向上を図り、庁用車の適正使用に努めます。



（２）取組事項

まず減らす

1	近隣への移動においては、自転車を利用します。	
2	出張においては、できる限り公共交通機関を利用します。	
3	自動車運転日報の記入を徹底します。	

効率的に利用する、環境に投資する

1	庁用車の台数を見直します。	
2	庁用車で移動においては、できる限り相乗りを励行します。	
3	タイヤの空気圧の調整、エンジンのメンテナンスなど庁用車の整備を日常的に行います。	
4	エコドライブ及びアイドリングストップを実施します。	

5	低公害車や低燃費車（軽自動車を含む。）を導入するように努めます。	
6	アイドリングストップ装置（ 1 ）の導入に努めます。	

（3）コメント

自転車マップを利用して、自転車市役所を推進しています。



<http://www.city.wako.lg.jp/var/rev0/0002/8262>



天然ガス充填機と天然ガス車両(4台)

エコドライブのポイント

- ・ 不要なアイドリングはしない。
- ・ 人待ちや荷物の積下ろし、踏切待ちのときは、エンジンを切る。
- ・ 急発進・急加速をせず、省エネ運転に努める。
- ・ 無駄な荷物は積載しない。

1 アイドリングを避けるため、停車して一定時間が経過するとエンジンが停止する装置のことをいいます。

グリーン購入・調達の推進

（1）現状と課題


グリーン購入・調達とは、製品やサービス等を購入する際に、**環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入すること**をいいます。

グリーン購入・調達を行うことによって、**購入者自身の活動を環境にやさしいものにすることが**できるばかりでなく、**供給側の企業に対して環境への負荷の少ない製品の開発を促す**こともでき、持続的発展が可能な社会の構築を図ることができるため、その推進に努めます。




（2）取組事項

まず減らす

1	無駄な物品は買いません。	
---	--------------	---

2	物品を大切に扱い、長期間の使用を心がけます。	
---	------------------------	---

効率的に利用する、環境に投資する

1	<p>物品購入用のカタログやグリーン購入法特定調達物品情報提供システムを確認し、エコマーク等の環境ラベル(1)のついた商品を優先的に購入します。</p> 	
2	無包装や簡易包装された商品を購入します。	

(3) コメント

物品を購入する際には、グリーン購入法特定調達物品情報提供システム (2) を活用し、業務を行う上で最低限必要なもののみを購入します。

-
- 1 商品が環境に与える影響を消費者に伝えるため、商品に付ける記号のことをいいます。
 - 2 グリーン購入法を受けて、国等の機関が物品を購入する際に、参考となる情報を提供することを目的とするシステムのことをいいます。

参考URL : <http://www.env.go.jp/policy/hozen/green/g-law/gpl-db/>

公共工事（建築・土木）における環境配慮



(1) 現状と課題









建築工事や道路・上下水道工事での環境配慮については、法律で定められているものは順守できていますが、それ以外については、各職員の意識が必要となります。コスト面その他の要因で実現が困難なものもありますが、計画段階で環境配慮の視点を忘れずに、検討していくことが大切です。

施設の設備投資は、予算との兼ね合いが課題ですが、省エネルギー対策が図れるだけでなく、維持管理費といったライフサイクルコストに大きな削減効果が期待できます。長期的視点を持って、より経済的な選択を検討します。






(2) 取組事項

計画・設計段階での配慮

1	<p>設計者に本計画の概要を伝え、環境に配慮した設計書及び仕様書を作成します。 (各種共通仕様書(56ページ)参照)</p>	
2	高耐構造や長く使用できる材料を採用します。	

3	太陽光発電や雨水利用、自然採光といった自然エネルギーを積極的に導入します。	
4	電気設備及び機械設備について省エネルギー機器を導入します。	
5	節水器具を採用します。 浸透ます・浸透トレンチを設置します。	
6	屋上・壁面・ベランダ・敷地内での緑化を推進します。	
7	市有施設及び土木工事における県産木材の利用に努めます。	
8	建設廃棄物の少ない施工技術・施工方法を採用します。	
9	低騒音・低振動・低排出ガス型作業機械を採用します。	
10	地下水脈保護・雨水浸透・緑化・景観へ配慮します。	

発注・実施段階での配慮

1	公共工事に当たっては、周辺住民への事前説明を行います。	
2	土地の掘削を伴う工事は、掘削土量の削減及び現場内利用を推進します。	
3	アスファルトコンクリート塊、コンクリート塊等のリサイクルに努めます。	
4	その他建設副産物のリサイクルに努めます。	
5	マニフェストの写しを保管します。 (廃棄物の適正処理の監督)	

(3) コメント

工事発注に際しては、和光市建設工事特記仕様書（環境配慮事項）（54ページ参照）を添付し、環境に配慮した公共工事を推進します。

< 市内公共施設における屋上緑化導入事例 >



総合福祉会館 (744 m²)



和光消防署 (361.5 m²)

新エネルギーの導入

(1) 現状と課題

新エネルギーは、安定して大量のエネルギーを供給するにはまだ課題が多く、コストも高いことがデメリットになっていますが、資源が枯渇せず、これまで廃棄物としていたものを有効活用し、汚染物質や二酸化炭素を排出しないというメリットがあり、平成24年3月現在、市内公共施設において、太陽光発電システムが6施設(うち学校2施設)で導入されています。今後も、行政で率先して導入し、情報提供・意識啓発していく必要があります。

< 市内公共施設における太陽光発電システム導入事例 >



しらこ保育園 4kW



みなみ保育園 4kW




総合福祉会館 5kW



南地域センター 10kW

(2) 取組事項

1	和光市地域新エネルギービジョンに基づき、太陽光発電、太陽熱温水器、新エネルギーによる街路灯、天然ガスコージェネレーション(1)などの導入を図ります。	
---	--	---


- 1 ガスエンジン、ガスタービン、燃料電池等の発電装置を用いて、発生する電気と熱を有効に利用するシステムのことをいいます。

市全域でのごみ減量と焼却効率の向上

(1) 現状と課題

平成17年度から平成22年度にかけて、一般廃棄物焼却量は6.7%削減、廃プラスチック焼却量は25.1%削減されました。しかし、依然として市の温室効果ガス排出量のうち清掃センターの排出割合が大きいいため、清掃センターの施設改善による燃焼効率の向上やごみ削減に対する意識向上に努めます。

(2) 取組事項

1	一般廃棄物処理基本計画などに基づき、ごみの焼却効率の向上と市全域でのごみ減量を図ります。	
---	--	---



和光市清掃センター